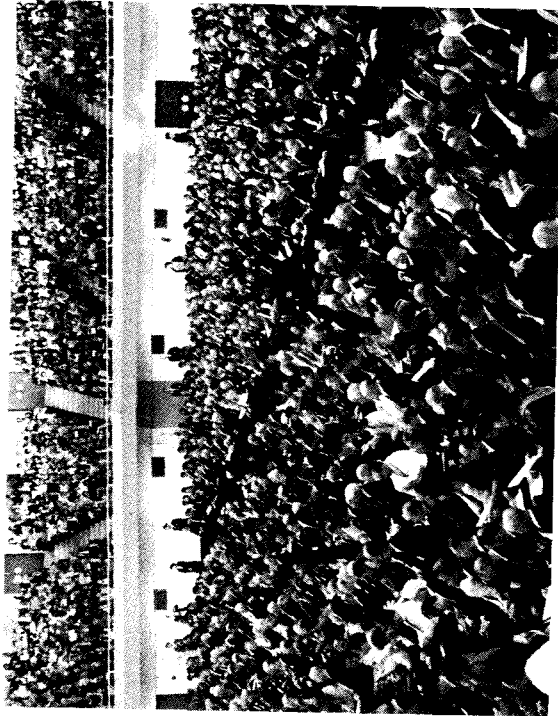


は2015年11月に行われた、「美しい日本の憲法をつくる国民の会」主催による1万人大会と呼ばれる集会の様子です。「美しい日本の憲法をつくる国民の会」は日本会議の改憲運動体であります。なぜバスの写真をお見せするかというと、これらのバスのナンバープレートを見ると、北海道と沖縄を除くほぼ全国各地から人々が動員されていることがわかるからです。

次の写真は、この大会に動員された人たちです（下写真）。これは武道館なんですが、武道館のアリーナをいっぱいにして、さらに2階席、3階席を埋めるほどの人が集まっています。

問題は、彼らが一体誰によって動員さ



れているかということです。実は、これらの人々は宗教団体から動員されています。一番前方に写っているのは、佛所護念会という仏教系の新興宗教教団から動員された人たちです。廊下を挟んで後ろ側にいるのは、宗教真光という、仏教でも神道でもない特殊な宗教団体から動員された人たちです。

もちろんここには宗教団体の信者ではない人たちもいますが、ほぼほぼ全て宗教団体およびその他の保守団体から動員された人たちだと見て間違いないと思います。僕は受付を観察していたのですが、僕の計算では、この大会に参加した人たちのうち、一般人はわずか13人でした。

これは政治家たちにとっては魅力的な写真だと思います。写真を見るだけでは、彼らが動員によって集められた人たちだということはわかりませんが、政治家たちには彼らがみんな票に見えるはずですよ。

実際、美しい日本の憲法をつくる国民の会は議員にも働きかけを行っています。彼らは地方議会に対して憲法改正の早期実現を求める運動を行っていますが、31の都府県議会が決議をしています。また、国会議員に対しても署名運動を展開しており、昨年11月の段階で422名の国会議員が署名しています。

もちろん彼らは国民向けの署名活動も行っていて、昨年11月の段階で400万人を超え

る人々が署名しています。これは先週までに700万台の後半まで増えました。彼らは憲法改正に向けた国民世論を形成するために、今後の方針としては、映画の上映会をやったり、チラシを1000万部配ったりすることを決定しています。

これらの数字を見ると、日本会議がまるで巨大な政治力を持っているかのように思われるかもしれませんが、それは誤解です。

例えば、日本会議系の参議院議員と言つと、だいたい次の3人の名前があがります。有村治子さんと衛藤晟一さん、そして山谷えり子さんです。彼らを支援している宗教団体は、それぞれ次の通りです。

有村治子：神道政治連盟、佛所護念会教団、崇教真光、黒住教、天台宗  
 衛藤晟一：新生佛教教団、佛所護念会教団、崇教真光、念法真教、解脫会  
 山谷えり子：神道政治連盟、佛所護念会教団、世界救世教、統一教会(Ⅲ)

これらは基本的に日本会議を構成している宗教団体と一緒です。日本では創価学会と公明党の事例があるので、宗教団体は選挙に強いというイメージを持ちがちですが、実際にはこれだけたくさんの宗教団体が束になつてかからないと議席を保持できないのです。

それはこの前の参議院選挙の結果を見れば明らかです。この選挙では、神道政治連盟や佛所護念会教団、世界救世教、統一教会、これらの宗教団体が必死になつて山谷えり子を支援しました。しかし、得票数はたつたの26万票でした。外国メディアの中には、神道が日本の政治を右傾化させていると書いているところもありますが、神道政治連盟の集票力はその程度のものであります。

### 「女子供は黙っている！」

ここで一度おさらいしたいと思います。日本会議には伝統宗教から新興宗教まで、神道系からキリスト教系まで、色々な宗教団体が集まっています。また、憲法改正に全く興味のない団体や、憲法改正よりも教育基本法の改正の方が重要だと言っている団体もいます。

となると、次のような疑問がわくはずです。「なぜ彼らは一緒に運動をやるのか」。そこには何かがあるはずです。

この疑問を解く鍵が日本会議の公式サイトにあります。次の年表を見てください(次頁参照)。これは日本会議がこれまで行ってきた運動一覧です。1974年から2007年までの運動が端的にまとめられています。